

豊かな自然とのかかわりの中で、豊かな学びを育む生活科学習のあり方
～四季を通した「海」での体験活動～

1. 設定理由

生活科が誕生してから、約20年が経った。多様な実践を通して成果と課題が見えてきた中で、生活科学習を支える最も基盤となるものは、子どもが心を躍らせ、徹底して対象にかかわり、いろいろな角度からアプローチできる学習材のあり方と、その教師の仕掛け方に他ならないように思える。そう考えた時、子どもにとって身近で、いつでもかかわることのできる地域の自然は、この上ない学習材と言えよう。

実践校、富浦小学校は、校庭を出ればすぐに海という立地条件に恵まれ、学区（4地区）が全て海に面している。さらに、その海は、磯・入り江・砂浜・漁港と様々な姿で存在し、晴れた日の沖には富士山が一望でき、冬の夕焼けの美しさは圧巻である。

そこで、このような豊かな自然（海）の中で春夏秋冬かけてあらゆる活動をすることで、子どもたちの豊かな学びを育むための単元開発を試みた。繰り返し、海とかわらせることで「すごい・おもしろい・なぜだろう」と、大いに感性を揺さぶられながら、とことん対象にかかわる…。つまり、五感を通して様々な得た気付きや発見を次の活動につなげ、さらに探求し、活動を広げ深める姿こそが、豊かな学びであると考えている。海がもたらす豊かな自然の醍醐味を味わい、自然に主体的にかかわり、自然について学び、自然を愛する子どもにしたい。今までの自分が、海とのかかわりを通してどのように成長したかを自分自身が実感できることもめざし、本主題を設定した。

2. 研究仮説

春夏秋冬、繰り返し海でかわる活動（遊ぶ・探す・作る・見る・食べる等）を取り入れれば、自分たちの地域の海の面白さや不思議・壮大さを体感し、豊かな学びを育むことができるだろう。

3. 研究内容

- (1) 第1学年「とみうらのうみのたからもの」の年間活動計画を作成する。
- (2) 授業実践により検証・考察をする。

4. 結論

- 四季を通じて海と直接かわることで、その季節ならではの自然の変化や海産物の様子に気付くことができた。また、同じ海でも、磯・入り江・砂浜・漁港といった、様々な地形が織り成す自然の不思議や面白さを体感することができた。
- 子どもが味わったことのない体験活動（泳ぐ・漁船に乗る・食べる等）を意図的に取り入れたことで「面白い・すごい・もっと～したい」という子どもの感性が揺さぶられ、自ら進んで海にかかわろうとする姿を見ることができた。
- 小単元ごとに、活動の振り返りの時間を設定することで、海での気付きや発見が明確になり、次への活動への意欲付けとなった。また、大単元の終末に海での体験を劇化（動作化・歌）で表現させることで、海に関する気付きが一層明確になった。
- 海での活動を計画する場合、震災後の津波に対する対応の仕方をしっかりと打ち出す必要がある。危機管理体制を十分に確立し、実施するようになりたい。